

情報の授業における生徒のニーズ

—情報の授業の在り方について—

群馬県立万場高等学校 藤岡良一

1. はじめに

生徒は、高等学校より教科「情報」を学習しているが、小学校では「総合的な学習の時間」、中学校では、「技術」の教科で、情報について学習している。したがって、高等学校の情報の授業では、それ以上の学習内容を欲している。

この研究では教科「情報」における、生徒の興味関心をひく学習内容と学習方法について研究をおこなった。

2. 研究方法

学期に1回、生徒にアンケートをおこない、情報リテラシーや情報の授業に対する意識、情報機器の使用と所持の状況などについて調査をおこなった。また、毎回の授業で自己評価をおこなった。自己評価では、実習と講義などでさまざまな授業を実施するなかで、生徒の授業における取り組みの評価と疲労度、満足度、感想の調査をおこなった。

生徒が記入したアンケート、自己評価、授業観察や生徒の制作したコンテンツなどを考察することにより研究をおこなった。

3. 生徒を取り巻く環境について

自宅にパーソナルコンピュータがあると答えた生徒は約65%、無いと答えた生徒は約35%であった。また、パーソナルコンピュータの操作が得意であると答えた生徒は約10%、得意でないと答えた生徒は約47%であった。携帯電話については、所持している生徒が約93%、携帯電話の操作が得意であると答えた生徒は約37%、得意でないと答えた生徒は約15%であった。

4. 研究の成果

授業内容が実習であれ、講義であれ、新たな知識、またはオペレーションを習得したという実感が無ければ生徒の満足度は低かった。また、インターネットを用いた調べ学習よりも、ワープロソフトや表計算ソフトを用いた授業の方が、満足度が高かった。

1時間が実習、1時間が講義という授業の場合、

実習、講義の内容に関わらず実習のほうが、満足度が高く、疲労度は低かった。オペレーションの例を示した直後に、練習問題に取り組むという授業内容の満足度が高かった。講義の後に実習のテストをおこなった場合でも同様であった。

2時間とも実習の授業の場合、実習の内容に関わらず、2時間目の満足度は低くなり、疲労度は高かった。授業観察でも2時間目は目の疲れをうったえる生徒や、集中力の低下が感じられる生徒もみられた。ただ、自由課題についてはこの限りでなく、満足度は高く、疲労度は低かった。

パーソナルコンピュータが自宅にある生徒と無い生徒を比較した場合、自己評価に関しては全体的に自宅に無い生徒のほうが高かった。疲労度に関してはどちらでもなく、同程度であった。満足度については、自宅にある生徒のほうが高い場合もあれば、無い生徒のほうが高い場合もあったが、講義については、自宅にある生徒の方が明らかに満足度は高かった。

男子と女子とで比較した場合、自己評価に関しては全体的に男子が高く、疲労度は女子のほうが全体的に高い傾向にあった。また、満足度は全体的に男子の方が高かった。特に講義に関しては1ポイント以上の差が出ることもあった。

5. おわりに

情報の授業に取り組みたいという生徒は多く、コンピュータを利用できるようになりたいという生徒のニーズは高かった。内容については情報科学の講義、または実習であっても、よりレベルの高い授業内容を欲している。実技に関する学習内容にニーズがあると思われ、ソフトウェアのオペレーションに特に興味があると思われる。したがって、ソフトウェアのオペレーションを総合的に用いた高度な作品の制作が生徒の興味関心を高められると思われる。

今後も、アンケートや自己評価を通して生徒のニーズを把握し、満足度の高い授業を目指していきたいと思います。